

福王便り

2023年9月1日発行

ふ く た ま だ よ り

通巻 第104号

発行:『福王便り』編集委員会 NPO法人埼玉広域避難者支援センター・(一社)埼玉県労働者福祉協議会

協力:生活協同組合コープみらい埼玉県本部

連絡先:NPO法人埼玉広域避難者支援センター 〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤6-4-21 ときわ会館1F TEL0120-60-7722



『飯館村べこやの母ちゃん それぞれの選択』 上映会の報告 7月30日(日)

外出は危険ですからなるだけ控えて、という警報アラートが発出された30日。この猛暑では誰一人来られなくても仕方ないか……と覚悟していましたが、30名近くの方々に来場いただきました。どうしても観たい、監督の話を聴きたい、という熱いお気持ちがか、3章構成の3時間という上映時間+30分のトークと長丁場の企画でしたが、あつという間に過ぎたような気がします。

本作品は、東日本大震災の東京電力福島第一原発事故で、全村避難を余儀なくされた福島県相馬郡飯館村の畜産・酪農家の3人の女性の10年間を古居みずえ監督が追いつけたドキュメンタリー映画です。飯館村へ通いながら故郷に戻れる日を待ち続けた中島信子さん、牛と共に新天地に移住した原田公子さん、先祖代々の土地と故郷を守るため新たなチャレンジに取り組む長谷川花子さんの3人を中

心に、家族、故郷と生業の間で揺れ動く女性たちの心情を丁寧にすくい取っていきます。ナレーションや音楽がないことで、飯館村の人たちのありのままの姿や言葉、表情、自然の音が人々の10年の葛藤や苦悩を伝えます。時間がどれだけたつても、「原発さえなければ」との無念な想いは変わらない。語りつくせぬ口惜しさ」と私はこうして生きていく」という母ちゃんたちの強い意志に圧倒されるような作品です。

映画のあと、古居監督に撮影時の裏話や苦労されたことを聞かせていただきました。コロナ禍で村に通うことが難しかったこと、映画にも出演された方々との別れがあったなど、つらいことが続いたけれど、応援や励ましを受けて完成にこぎつけることができました。監督にしか撮れない映画があり、



それをずっと待っている人々の想いがこのようにな形になったのだと感じました。前作の『土ととも』の際にも、なんと封切り前に映画や飯館村の話を見聞きました。監督は最後に「次はべこやの母ちゃん、の映画を作りたい」と言われ、会場から「これからも福島風景を撮り続けてほしい」とのエールが続きました。その時の報告は福王便り第46号(2016年6月号)に掲載しています。それから7年。ついに完成し、劇場公開後に自主上映会の呼びかけが始まってすぐに申し込みました。長い期間をかけての取材と撮影に

対して、監督に直接お礼の言葉を伝えたいと思ったのでした。これから海外での上映も検討中と伺い、会場では支援のためのカンパを募らせて頂きました。今



後も各地で多くの方々に観ていただきたいと思います。

上映会会場の埼玉県男女共同参画推進センターでは、上映会に合わせて、浪江町に住んでいた写真家・菅野千代子さんが原発事故前に撮った『飯館村

の暮らし』の写真展を開催しました(7月24日〜8月6日)。四季折々の美しい村の風景、村民の何気ない表情や語らいの様子に引きこまれ、最後に、同じような光景はもう見ることがないと気がつく、と、またじっと見返す、そういう方々が多かったようです。最終日に片づけているとセンターで働いている方が来られて、「今日で終わりですね。展示期間中ずっとこの写真を見て、自分もがんばらなきゃ、と思っていたのよね。」と言われた言葉が印象的でした。

私たちもまた自分たちができることを続けていかねば、と思った夏でした。

(編集部・薄井)

「東日本大震災に咲く会ひまわり」（上尾市）代表でシンガーソングライターの橘光顕さんがこの度、10曲収録のアルバムCD「たどり着いた街で」を発表されました。私も橘さんの歌は折に触れて聴かせていただいていたのですが、同封ブックレットに掲載された歌詞と紹介文を読みながら、改めてじっくり聴かせていただきました。どの歌にも、「震災、原発、避難」といった直接的な言葉はあえて使われていません。ですが、一つひとつの歌からこうしたテーマや、橘さんの故郷の風景が、ありありと浮かび上がってきました。同じ経験を経験された福玉読者の方々に、きっと共感していただけるのではないかと思います。（編集部・原田）

以下、橘さんからのメッセージです。



福島県浪江町から埼玉県上尾市に避難して来た、橘と申します。避難後から、機会があれば舞台で唄い続けて来ましたが、避難指示解除の頃から体調を崩し、唄うことが困難となりました。しかし、震災や避難について紙芝居に記す方や、写真撮り続ける方をみて、自分もCDとして歌を残さなければとの想いから、レコーディングに踏み切りました。

ここに収められている歌はすべて、東日本大震災以降に出来たものです。それ故、避難後の生活の中から生まれた曲ばかりです。避難先でのこと、故郷を思い出しているもの、出会った方々とのふれあいを描いた曲となっています。その経緯から、CDに値段を付けて売る気にはなれず、購入した方の寄付とすることにしました。価格は聴いた貴方が決めてください。0円でも構いませんし、一般のものより高くても大歓迎です。

今を生きる多くの方々に聴いて欲しい1枚です。CDをご希望の方は、住所・氏名・希望枚数を記載の上、kairoudo@icloud.com までご連絡くださいませ。

東京電力福島原発事故による被害者の皆様へ

原子力損害賠償・廃炉等支援機構

原子力損害賠償に関する説明・個別相談会のご案内

- 開催日 9月9日（土）
午前10時～午後4時
〔休憩：午前12時～午後1時〕
- 会場 ウェスタ川越
住所：埼玉県川越市新宿町1-17-17
2F 市民活動・生涯学習施設 会議室2
※1Fにも同様の会議室がございますが、2Fの会議室2になります。
・JR川越線、東武東上線「川越駅」西口より徒歩5分
・西武新宿線「本川越駅」より徒歩15分
・有料の専用駐車場はございますが、台数に限りがありますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。
- 対象：原子力損害においてお困りの皆様
□ 原則として、相談時間は1回1時間（時間予約制）
※ 個別相談は、必ず事前予約をお願いします。
※ 相談は無料です。
- 専門家にご相談ください。
・両親とは別に住居を建てたいのですが、費用は賠償されますか？
・何の項目の損害賠償を受け取ったのか、よくわからないのですが？
・第五次追補で決まった追加賠償について聞きたいことがある。
・知人がADRで賠償の増額を受けたと聞いたのですが…
・請求漏れがないか相談したいという方
・まだ住居確保にかかる費用の賠償請求がお済でない方
・住居確保にかかる費用の賠償可能残額がある方
・ADRの申立てについて相談したいという方 など
- 連絡先
□ ご相談をご希望の方は、事前予約をお願い致します。
予約専用ダイヤル 0120-330-540
受付時間：9:30～17:00 土日も受付（祝休日を除く）
- ご来場が難しい場合は、電話相談をぜひご利用ください。
電話相談ダイヤル 0120-013-814
対応時間：10:00～13:00、14:00～17:00 月曜～土曜（祝休日を除く）
・行政書士による電話での情報提供（事前予約不要）
・弁護士による電話での相談は、祝日を除く毎週火・木曜 10:00～13:00（事前予約制）
・オンラインでのご相談も可能です。

中間指針第五次追補等を踏まえた追加賠償について

中間指針第五次追補等を踏まえた追加賠償に関する最新の情報は、東京電力のWebサイト（右下のQRコード）で確認、又は、東京電力のご相談専用ダイヤルにお問い合わせください。
東京電力ご相談専用ダイヤル
0120-926-470
9:00～19:00（月～金（除く祝休日））
9:00～17:00（土・日・祝休日）

※双葉町から現在は栃木県小山市に避難されている北村雅さんから、原稿と50年前の「双葉高校新聞」のコピーを送っていただきましたので、ご紹介いたします。読者の皆様からの情報やご寄稿を引き続きお待ちしております。

50年前の「双葉高校新聞」に寄せて

母校・福島県立双葉高校は、今年、創立一〇〇周年を迎えました。現在は、原発事故のため休校中です。ちなみに創立50周年の時は、私が高校三年生で、念願の甲子園初

母校・福島県立双葉高校は、今年、創立一〇〇周年を迎えました。現在は、原発事故のため休校中です。ちなみに創立50周年の時は、私が高校三年生で、念願の甲子園初



創立50周年記念」の資料があったので持参してきました。中身は、50周年記念式典次第、文化祭関係とチケット、そして「双葉高校新聞」。私にとっては懐かしいが、全く記憶にないものばかりでした。「双葉高校新聞」を手に取るとセピア色で、時間と歴史を感じました。1面は創立50周年おめでとう、2面は50年の歩み。そして、3面の「原子力発電の安全性を問う」の文字が目が釘付けになりました。「期待される第3の火」「不十分な安全性の確立」「地域住民の意識調査」「断言出来ない安全性」「事故は起きない?」「低い住民の意識」「放射能障害は皆無か」「何処へ捨てるか放射性廃棄物」「廃炉後は、公園に」「望まれる正しい理解」。凄い、凄すぎる。当時の高校生が、50年前に、こんなに問題意識を持っていたんだ!あれから50年、私達は何をしてきたのだろか?12年前の原発事故とは無縁ではない、そんな気がしてなりません。私達は何を検証し、何をしなければならぬのか、この記事は警鐘を鳴らしてくれました。50年前の「双葉高校新聞」が、目の目を見ることが出来て、感謝でいっぱいです。

(北村雅)

原発事故後を生きるアーティストたちが表現

南相馬市小高区「おれたちの伝承館」

7月12日、「おれたちの伝承館」(福島県南相馬市小高区)がオープンしました。7年前の7月12日は、南相馬市小高区の避難指示が解除された日。館長の中筋純さん(フォトグラファー)は仲間たちと共に、12日に何とか間に合わせたと言います。

裏で、人々の愛した町並みが消滅していく様子を写真に収め続けてきました。

中筋さんは2007年、初めてチエルノブイリに行き、衝撃を受け、たびたび通いながら、消滅する都市をカメラにおさめてきました。そんな中、2011年の福島原発事故が起きてしまいました。

2013年から、浪江町から「公益通行証」をもらい、町を取材し続けています。政府の決めた「復興」政策の



しかし福島では、原発事故がなかったかのように、どんな作り替えられ、かつて違う町があったことも、想像できなくなっています。

2016年まで、双葉町には「原子力明るい未来のエネルギー」の看板がありました。

その看板が撤去される日、中筋さんはその場所でカメラを構えていました。

「文字盤は、スルと横に文字が

取れていきました。『簡単に取れるな』と思って見ていたら、『未来』の文字だけ、動かない。10分くらい剥がれなかった。それが、すごい象徴的だね。双葉町は、縄文時代から集落があるんですが、その縄文から土に眠る人々が『未来』をもう一回考えろ!』と訴えているような気がして」

その後、造形作家の知人に頼んで、『未来』のレプリカを作ってもらい、それは、「おれたちの伝承館」に展示されています。

●「話せなかった」が集まる場に

「おれたちの伝承館」の「おれたち」について、中筋さんはこう語ってくれました。

「拾い切れていない民々の声がある。行政にお任せの公式な伝承ではなくおれたちが、民間で伝承したい

んです。

『おれ』はジェンダー的にもどうなの、という意見もあるかもしれないですが、浜通りのバツパ(おばあちゃん)は自分を『おれ』っていうんですね。だから、『みんな』『民衆』という意図があります。この空間が、『誰にも話せなかったんだよ』という声が集まる場になればいいですね」

ここまでの道のりは大変だったそうです。



まず、解除されたままの倉庫は

徹底した除染と掃除が必要でした。倉庫の表面汚染は高いところで2000〜3000ベクレル/キログラム。被ばくに厳格な元放射線管理員に関わってもらい、防護服に手首・足首を張りして掃除したと言います。

作業をしている間、近所のお年寄りが声をかけてく

れたり、突然差し入れをしてくれたりしたそうです。今後、地域の人との関係を構築していきたいと中筋さんは話しています。

●虐げられたものの声に応じて

伝承館の天井には山内若菜さんの作品「命煌めき」が飾られています。その絵に手を伸ばすように1階フロアから、

安藤榮作さんの「鳳凰」が聳え立っています。

山内さんは2013年から飯館

村に通い被ばくした馬を見続けてきました。天井の絵は6月はじめに完成していましたが、ドローンで撮影された全体像を見て、予定を変更し、すぐに小高に駆けつけたそうです。「山内さんの絵は心臓になる、と言われていたが、これではダメだと思った」と、7日間かけて現地制作を行いました

漁業者「汚染水を流せば魚は売れない」

郡山市で原子力規制庁と東京電力との意見交換会

ALPS処理汚染水の海洋放出が迫っています。7月23日、脱原発福島県民会議、原子力資料情報室ら10団体による、原子力規制庁と東京電力との意見交換

会が福島県郡山市で開かれました。この日は、新地町から漁業者の小野晴雄さんが駆けつけ、マイクを握りました。

「海は仕事場。政治家は海が大事だつてわかんないですよね。汚染水を流せば魚は売れない」と、漁師としての実

感を述べ、これまで地域でいかに海を大切にしながら暮らしてきたかを語りました。子どもが生まれたら海で体を清めること、海の祭り「お浜下り（おはまおり）」のこと等を説明し、「海は偉大」「ゴミ箱じゃない」と訴えました。

さらに、「耐えて耐えて、12



年耐えたんですよ。我々に、まだ耐えろと？」「この人（規制庁・東電職員）たち、30年後にないでしょう。責任を負うこと、できるんですか？」と

問いかけ、
「私たちはここから離れられないんですよ」「絶対に流さないように、お願いしますよ。お願いします。お願いし

すよ」と頭を下げたのです。2015年の「関係者の理解なしにいかなる処分も行なわない」という福島県漁連との約束についても質問が殺到しました。

「関係者とは誰か」という問いに、東電は「いろんな関係者がいる」「我々は説明を

尽くしていく」と繰り返すばかり。「政府方針（海洋放出の決定）を重く受け止めている」という言葉もあり、県漁連との約束と政府方針のどちらを重くみているのか、疑問は募ります。「この夏に流せる状況ではない」と詰められると「ご理解いただくよう努めてまいります」と繰り返すばかりでした。

処理汚染水の海洋放出の「関係者」は全世界、そして次世代ではないでしょうか。予算も膨らみ続け、代替案の方が低コストだったかもしれない状況です。福島県に住む若い人から「安全」と言っているのは関東とか他の地域の人だけでしょう。なんで福島だけに押し付けるのか、と思います」と打ち明けてもらったこともあります。

どうか、放出を立ち止まり、考え直す道はないのでしょうか。

（編集部・吉田）

た。それを見守っていた中筋さんは「山内さんは、朝7時から夜9時まで制作していた」と明かします。

山内さんは、中筋さんが高校生の後ろ姿を見ているところ、手伝いに来た外国人や、今野寿美雄さん（浪江町）がハンマーを使うところなどを描き加えました。赤い三本の薔薇は、「生まれてきてくれて、ありがとう」という意味がこめ



られています。その背後に、死んだ白い馬のさゆりちゃんが生き返り、天に叫んでいます。

「この絵は、現場の人と一緒に作った」と山内さん。ギャラリートークでは、「自由に感じ、物語をつ

くってみてください」と語り、詩を披露してくれました。

せたい赤い娘／原発事故の犠牲者としての牛や馬たち／社畜だった私／死者そのもの――」

天井に釣り上げるのは、難しい作業だったそうです。今野さんが足場を作り、水平になるように最後まで一人、調整をしていた

といいます。今野さんは「筋肉痛になった、ちゅうきたかる（手が震える）」と

ニコしていました。天井吊り上げのボランティアに参加したのは20人ほど。感動のあまり、泣いてしまつたという山内さんは、こうも話しています。

「虐げられた者の声に応じて、小さくても一緒に声をあげる。そうしたら強いんじゃないか」。

（編集部・吉田）

「死んだ動物が画面全体に踊る／自分の馬を甦ら

各地の 交流会など

新型コロナウイルスの感染拡大により、交流会の流動的な状況が続いておりました。5月には感染法上の分類が「5類」に引き下げとなりましたが、各交流会の感染対策については連絡先にお問い合わせください。なお、各交流会に参加される方は、引き続き体温測定の上でご参加いただき、参加中は消毒や換気にご協力ください。

①	加須市	双葉町民によるボランティアカフェ	090-5356-8778 (鵜沼さん)
③	加須市	双葉町手芸教室	080-5532-7380 (薄井さん)
⑤	加須市	すくすくのおそび広場	090-2411-8598 (戸恒さん)
⑥	加須市	オバトン	090-6526-8560 (藤井さん)
⑧	上尾市	東日本大震災に咲く会ひまわり	080-3091-6215 (橘さん)
⑩	熊谷市	くまがや結の会	090-7661-9236 (林崎さん)
⑬	越谷市	あゆみの会	090-9425-2001 (石上さん)
⑮	川口市	ひまわりの会	080-5431-0123 (島田さん)
⑲	さいたま市	さいがい・つながりカフェ	080-5532-7380 tunagari.saitama@gmail.com
⑳	新座市	新座つながりカフェ	090-2402-9155 (谷森さん)
㉑	ふじみ野市	おあがんなんしょ交流会	090-5345-8408 (松舘さん)
㉒	川越市	ここカフェ@川越	070-5080-4494 (鈴木さん)
㉓	さいたま市	玉兎の会	090-6128-1948 (小林さん) https://gyokutonokai.wixsite.com/2018

①【双葉町民によるボランティアカフェ】10月より、ボランティアカフェを再開することになりました。年内は、毎月第一火曜日開催予定です。コロナ対策のため、午前中のみ人数制限有りでの開催となります。参加希望の方は、事前にご連絡ください。

10/3(火)9:30～11:30

双葉町社会福祉協議会加須事務所
090-5356-8778 (鵜沼さん)

③【双葉町手芸教室】9/26(火)、10/24(火)10:00～12:00
双葉町社会福祉協議会加須事務所
080-5532-7380 (薄井さん)

⑥【オバトン】

10月10日(火)は会場が休館日のためお休みです。熱中症にも気をつけながらマスク・手指消毒を継続しています。事故など怪我のないようにお気をつけておいでください。お待ちしております。

9/12(火)、9/28(木)、10/26(木)
10:00～14:00

キャスルきさい

090-6526-8560 (藤井さん)

※今年度はコープみらい助成金(社会貢献活動助成金制度)の支援を受けて活動しています。

③②【ここカフェ@川越】交流会 調整しながら毎月開催予定(JUNホール)。また、各ご家庭を訪問する見守り支援を毎月行います。
pororon311@gmail.com、070-5080-4494 (鈴木さん)

㉑【おあがんなんしょ交流会】9/17(日) 交流会
13:30～ 西公民館集会室 10/26(木) バス旅行(伊豆方面)
090-5345-8408 (松舘さん)

⑲【さいがい・つながりカフェ】9/14(木)、9/28(木)、
10/12(木)11:00～15:00。With Youさいたま4F和室
080-5532-7380 tunagari.saitama@gmail.com

⑬【あゆみの会】9/3(日) ブドウ狩り 9/10(日) 大根の種まきと冬野菜の植付 10/8(日) サツマイモの収穫とサンマ祭り 090-9425-2001 (石上さん) ※あゆみの会のホームページを作りました。ぜひご覧ください。
<http://k-ayuminokai.info/>

福玉相談センター：電話 0120-60-7722 (フリーダイヤル)

メール：fukushima_soudan@yahoo.co.jp 相談日：月～金 (9:30～16:30)



福玉相談センターの開所日は、月曜日、水曜日、木曜日、金曜日の9:30～16:30です。なお、メールでの相談は随時行っております。こちらから折り返し、ご連絡しますので、差し支えなければ、連絡先をメールの文面に記入していただくようお願いいたします。ご迷惑をおかけしますが、ご理解のほど、よろしくお願いいたします